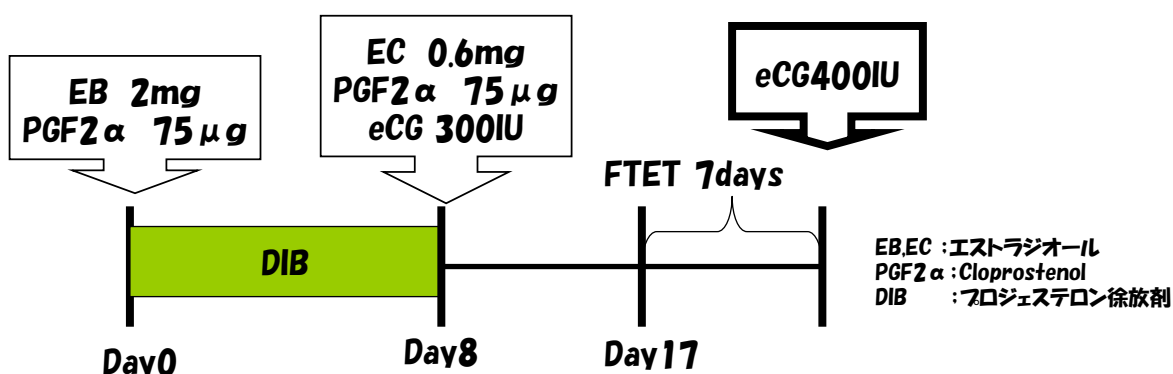


3月号のETセンターニュースでAI後のeCG投与により経産牛で受胎率が向上した事例を報告いたしました。今回はET後7日目でのeCG投与による受胎率への影響を調査した研究報告を紹介いたします。現場での受胎率向上の参考になりましたら幸いです。

ネロール種もしくは交雑種受卵牛におけるET後のeCG投与による影響
(M.C.C. Mattos ら Brazil)

近年、乳用牛もしくは肉用牛で定時人工授精後14もしくは22日目でのeCG投与により受胎率が向上することを示唆する報告がある。今回は定時胚移植(FTET)後7日目での受卵牛へのeCG投与により受胎率が向上するか否かを調べた。470頭(うち未経産牛179頭、乾乳経産牛152頭、泌乳牛139頭)のネロール種もしくは交雑種受卵牛を同期化した。超音波診断により黄体直径が15mm以上の受卵牛を試験に供試した(297頭、うち未経産牛113頭、乾乳経産牛114頭、泌乳牛70頭)。バランスよく選んだ127頭はFTET後7日目にeCG400IUを投与し(eCG群)、残り170頭は無処置とし(コントロール群)、それぞれの30日目もしくは60日目での受胎率を比較検討した。定時胚移植プログラムは以下の通り。



結果、30日目および60日目での妊娠鑑定で受胎率に差は認められなかった。

	30日目受胎率 (%)	60日目受胎率 (%)
eCG群	35.9±5.5	27.6±4.9
control群	33.5±4.4	26.7±3.9
	M±SE	

結論として Bos indicus 種を受卵牛としたET後7日目でのeCG投与により受胎率は向上しなかったという結論でした。しかしながら前にも記載しましたように、AI後のeCG投与により受胎率が向上したという報告が多々あることから、品種や未経産、経産の違いにより今後ET後の受胎率も向上する可能性があるかもしれません。